

直接測定との比較

二つの放射性核種の測定情報が、公衆の被ばくを評価するための情報源となった。

- ① 甲状腺、特に小児の甲状腺におけるヨウ素131 (I-131) の測定値
- ② セシウム134 (Cs-134) とセシウム137 (Cs-137) の全身モニタリング結果

1. 国連科学委員会(UNSCEAR)が内部被ばくによる甲状腺の地区平均吸収線量を推定した結果は、同じ対象グループの直接のモニタリングから導き出された甲状腺の地区平均吸収線量より最大で約5倍高かった。
2. 福島県において10万6,000人以上の住民を対象にしたホールボディカウンタ検査結果は、UNSCEARが推定したCs-134とCs-137の吸入と経口摂取による平均的実効線量値よりもかなり低かった。

UNSCEAR 報告書では、公衆の放射線被ばくを推定するにあたり、例えば、情報不足による防護措置に関する仮定や線量測定に関する因子などに関し若干の過大評価を行った可能性が示されています。そのことは、事故直後に福島県内で行われたヨウ素 131 の甲状腺測定、及びセシウム 134 とセシウム 137 の全身測定 (WBC) 結果との比較でも確認されています。

比較の対象とされたデータは、次の通りです。

- ①内部被ばくによる甲状腺吸収線量：2011（平成 23）年 3 月 26 日から 30 日までの間に、いわき市、川俣町、飯館村に居住する 1 歳から 15 歳の乳児、小児 1,080 人を対象に可搬型線量率計を用いて行われた甲状腺モニタリングのデータ
- ②内部被ばくによる実効線量：福島県の県民健康調査の一環として実施された、福島県における 10 万 6,000 人以上の住民を対象にしたホールボディカウンタ (WBC) 検査のデータ。さらに、研究者らが 2011（平成 23）年 10 月から 2012 年 2 月にかけて福島県と近隣県の 3 万 3,000 人の住民を対象にした WBC 検査のデータ

図で示した通り、これらの実測データと UNSCEAR による推計の比較について、UNSCEAR 報告書は次のようにまとめています。

- ・上記①に関しては実測データの地区平均吸収線量より最大で 5 倍
- ・上記②に関しては実測データよりかなり高い（実測データが UNSCEAR による評価線量よりもかなり低い）

【報告書記載箇所】

- ・ UNSCEAR 報告書 (Annex A, 日本語版 p.36 ~ 37, 第 116 ~ 118 項から作成)

本資料への収録日：2015 年 3 月 31 日